資料２

第１回　和束町第5次総合計画審議会

議事要旨

日時：令和2年11月12日（木）午後7時30分～午後10：00
場所：和束町社会福祉センター大ホール

出席者
町長　　：堀町長
出席委員：藤井委員、濟藤委員、荒木委員、村田委員、中川委員、井上委員（代理：坊氏）、姫野委員、大西(研)委員、西田委員、奥委員、北委員、吉田委員、村城委員、岡田（文）委員、西村委員、澤委員
欠席委員：岡田（周）委員、大西（隆）委員、湊委員、布川委員
事 務 局 ：岡田課長、藤原課長、中尾課長補佐、(株)ぎょうせい2名

配布資料
資料-1　　和束町総合計画審議会設置条例
資料-2　　和束町第5次総合計画審議会委員名簿
資料-3　　和束町第5次総合計画策定基本方針
資料-4　　総合計画策定スケジュール
資料-5-1　和束町まちづくりアンケート調査結果（概要）
資料-5-2　和束町まちづくりアンケート（中学生向け）調査結果（概要）
資料-5-3　和束町まちづくりアンケート調査結果報告書
資料-5-4　和束町まちづくりアンケート（中学生向け）調査結果報告書
資料-6　　和束町総合計画策定に係る地域概況調査報告書（その1）
資料-7　　犬打峠トンネルが開通したら京都府南部がこう変わる

次第

1　町長あいさつ
2　和束町総合計画審議会設置条例について【資料1】
3　委嘱状の交付

4　委員紹介 【資料 2】

5　会長及び副会長の選出

大西（研）委員の指名推薦により、藤井委員が会長に選出された。

藤井会長の推薦により、濟藤委員が副会長に選出された。

6　会長あいさつ

7　諮　問

8　報告事項について 【資料3～7】

資料3～資料7について、事務局より説明。

9　その他（各委員からの御意見、その他）

会　　長：資料6の5ページに人口動態の表があるが、人口推計の値は、これらの自然動態及び社会動態が影響していると考えて良いか。2つ目として、あやふやな情報ではあるが、和束町は一定以上の企業誘致が制約があってできないと聞いている。犬打峠トンネルができることで、確かにアクセスが良くなるが、どの規模の企業を誘致できるのか。

町　　長：法律的に制限をしているのは、保安林、危険区域、お茶生産地として農振地域、生業景観としての景観条例の関連がある。宇治田原町は都市計画区域なので、少し違う。地形的な問題で面積的には企業誘致に限りがある。犬打峠トンネルができると、城陽の工業団地、宇治田原の工業団地などが近くなり、その周辺に和束町がある。ハザードマップについては、日頃から国民一人一人が自分の命を守るためのもの、災害時に逃げることを優先するという意味で、住んではいけないというわけではない。

副 会 長：前から分かっていることがあるのに、動けていない現状がある。農業委員会会長として農家の代表としての役割を果たそうとしているが、人口減少など和束町の課題がたくさんある。昔は今の宅地の面積で今より多くの人が住んでいた。人口が減ってきた中でどのような対策をしてきたのか。トンネルの完成は 3 年後なのに、和束町に土地を買いにくる人がいないのは、魅力がないということ。3,700 人台となっている中で、魅力あるまちをつくるために真剣になって考えていかなければならないが、未だに誰かがするだろうという空気感がある。周囲の市町村には通勤圏内であり町の空気がキレイなのに、人口が増えていない。住みよい町のアピールができていない。和束出身の外の人に対してふるさと納税で3割を還元するなど工夫すれば、もっと税収も増えると思う。町の体制がよくなることが、いずれ変わってくることに繋がることを理解したほうが良い。

西田委員：犬打峠トンネルができると変わると思うが、どのように変わるかわからない。

奥　委員：人口減少が進んでいる中で、どのような対策をして、どのような効果があったのかを真剣に検討していかなければならない。

北　委員：身体障がい者になって和束町に住み始めたが、町に住んでいてよかったと思える点は少ない。なぜ人口がこれほど減っていくのか。転出が多いのは魅力に欠けるのではないか。身体障がい者でも住んでよかったと思える町づくりが必要。次世代の子どもたちが転出しないようなまちづくりが必要。

吉田委員：アンケートの中で生涯学習、文化、スポーツの満足度が低いので、何かしら対策は必要だと感じていたところ。20 人の委員がいて、女性の委員が少ないのではないか。昨今男女参画やLGBTが議論される中で、やはり少ないと感じる。女性の意見をもっと取り入れて進めて方法を考えていかなければならない。立場上、中学生など若い子ども達の意見を聞けるので、そういった部分も審議会に反映させていければと思う。

村城委員：以前は奈良県に住んでいたが、親の高齢に伴い和束町に帰ってきた。若いころは住みにくいと思っていたが、今は住みよい町である。年齢で町の良さをどう感じるかが変わってくると思う。犬打峠トンネルについては、名称が仮称であるならば、「宇治―和束トンネル」などネーミングが大事である。

事　務　局：犬打峠トンネルの名称は正式に決まっていないので、町長から府に対して意見を述べていきたい。

岡田（文）委員：いろんな分野をすべてやるのは困難だが、一方で一つひとつやっていかなければ進まない。コロナで農家をやめることを考える人も増えている。10 年後に緑が残っているのか不安である。いろんな課題が山積みではあるので、次世代にかかわることと、自分自身の問題として、真剣に考えていかなければならない。

西村委員：移住してきて 1 か月ぐらいだが、客観的な印象として町は魅力がある。ポテンシャルが高いと思うので、このままにしておくのはもったいない。人口減少は重大な問題で、年間 100 人減っていくと 10 年後できることもできなくなるので、ここ数年で対策をしっかりしていかないといけない。町の良いところとして、茶源郷祭りは素晴らしいイベントであり、和束町の良さを配信する仕組みを町は持っている。個人的なことだが、YouTube で動画を配信していくことを考えている。移住者の目線でいろんな場面の配信や実際の情報を配信していきたい。インフルエンサーになれればと考えている。和束町の魅力をもっと教えていただけると、もっと外部へ配信していけると思う。

澤　委員：資料を読んだだけでは分からないことも多いが、正直若い人の移住先としては厳しいと思う。茶業に携わる以外では住みづらい環境である。和束町の交通インフラが悪い点、町のルールが外部の人に対して受け入れにくいなどの点が見受けられる。資料6の9ページの小売業が減っていることについて、どのような状況なのか教えて欲しい。

町　　長：絶対的な人口が減ってきていることと、外への購入が増えて、小売業の高齢化などがある。日本全体の農山村の問題。働き方改革で「半農半x」が注目されている。各農家が元は工場をもっていたが、だんだん共同化が進んできている。人口減少に伴う税収減少に関しては、子の教育を大事することなどから木津川の学研都市などに家を買い、和束町に通う交流・関係人口増えてきて、税金は木津川市に入るという現状もある。

交流人口・関係人口がクローズアップされてきている。一方でトンネル開通によるストロー現象が発生しないような取組が必要。

大西（研）委員：トンネル開通に期待している。今は加茂―木津―奈良が通常だが、トンネルができると城陽―宇治につながる。子供たちの就職の選択もつながる。

姫野委員：和束の福祉施設の計画が進んでいる中で、総計との整合性はとっているのか。トンネルは期待しているが、高齢化率が 40％超えているので、生産年齢人口が少ない。まちを続けていくには、人口を増やすことが大事。子どもは外に住んで和束に通って茶業をしている現状がある。農振計画の見直しが進んでいないことが問題。

事 務 局：総計と福祉関連計画については、動きを確認しながら計画策定を進める。

副 会 長：農業委員会の立場であるが農業の経営を守るなら、その農振地の計画見直しを行っていかなければならない。目の前に危機が来てからしか行政は動かない。住民は 10 年後を考えて生活している。

坊 委 員（代理）：生まれた時から和束町。アンケートにある「住みたくない理由」として、「買い物するところがない」といったことが挙がっており、以前と比べて利益が減っており、後継者に繋げないといったことや、人口減少、消費者のニーズに対応できていない現状がある。今後は犬打峠トンネルが開通して、関係・交流人口が増える見込みなので、それらを踏まえて事業の展開を考えていかなければならない。10 月から行政の支援も得て移動スーパーを開始している。高齢者が満足して買い物をされる姿をみると重点事項として取り組むべきだと感じる。買い物できる喜びを感じてもらえたと思う。

中川委員：和束町に住んで 30 年になる。改めて実態を知ったところ。30 年後には 1,500 人を下回る推計となっている。この 10 年間において何を重点として定めていくのかが大事。関連している取り組みを大事にしていかなければならない。2 町

1村で良いところを示し合わす取り組みをやっている。子どもたちが展望を持てる施策が大事。

村田委員：学校教育の中で、キャリア教育（夢と希望を与えられる）、ふるさと教育（お茶関連などを知ってもらう）ことをやってもらっている。子どもたちが外に出たい願望を止めることができない。止めるのは大人のエゴ。子どもたちが夢を描く中にトンネルの完成も大きく影響すると考えている。また、帰ってくるときに、居場所をいかに残していくのかが大事。いかに移住者を増やすのかも考えていくことも大事。行政と連携して、できることを着実に進めていければと思う。外に出た子ども達が、和束町で育ってよかったと思える町を作っていく計画としなければならない。

荒木委員：年々増えている独居老人や高齢者世帯等の見守りを進めているが、どこまで関わったらよいのかというところがある。行政と協力して進めている。原山地区に空き家対策で移住してきている夫婦がいる。トンネルができることで住みやすい・魅力のある町であることを発信して、一人でも移住者が増えるよう進めてほしい。

会　　長：皆さんの意見を聞いて、かなり深刻な状況になっていることは共通認識である。施策などはその時の問題意識や社会環境で決まっていく。これからどんな課題があるかを考えていかなければならない。農地法がある中で、産業振興とどのようにバランスをとっていくことが求められる。自然減少に対する施策をいかに進めていくかが求められている。構想 10 年計画の 5 年でも人口減少もある中で、計画の達成状況など短期的に見直しをしていくことを考えて策定を進めていくべき。

副 会 長：皆様の真剣な思いのもと会議に参加されている。商売をする立場からすると、目的・戦略・戦術をすばやく考えていかなければならない。そのためには情報の開示のスピードを速めていかなければならない。どうすれば周知できるかを考えていけるとよい。

事 務 局：第2回の審議会については、会長・副会長と調整して、スピード感をもって周知したうえで、決めていきたい。

町　　長：和束町の様々な課題に向けて、どんなまちづくりを進めていくのかが大事。

以上